

# にかほ市小・中学校再編



令和6年4月

にかほ市教育委員会

## 小学校の再編計画

(1) (仮称) 平沢・院内統合小学校

(対象校2校：平沢小、院内小)

①再編の時期・・・ 令和10年4月の統合を目指す。

■児童数及び学級数の推移

小学校	令和9年 2027		小学校	令和10年 2028		令和11年 2029		令和12年 2030	
	児童数	学級数		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
平沢小	259	10	平沢・院内 統合小学校	305	12	272	12	266	12
院内小	72	6							

②学校の位置・・・ 平沢小学校を統合校舎とする。(にかほ市平沢字画書面37-1)

③通学区域・・・ 仁賀保地域(現平沢小学校区及び現院内小学校区)

④施設整備・・・ 現平沢小学校の施設を継続使用するため、令和9年度にかけて既存校舎、屋内運動場の改築や、駐車場、スクールバス発着場等の整備を行う。

⑤学校統合準備委員会の設置・・・ 令和6年度中に学校統合準備委員会(仮称)を設置する。

## 小学校の適正配置の考え方

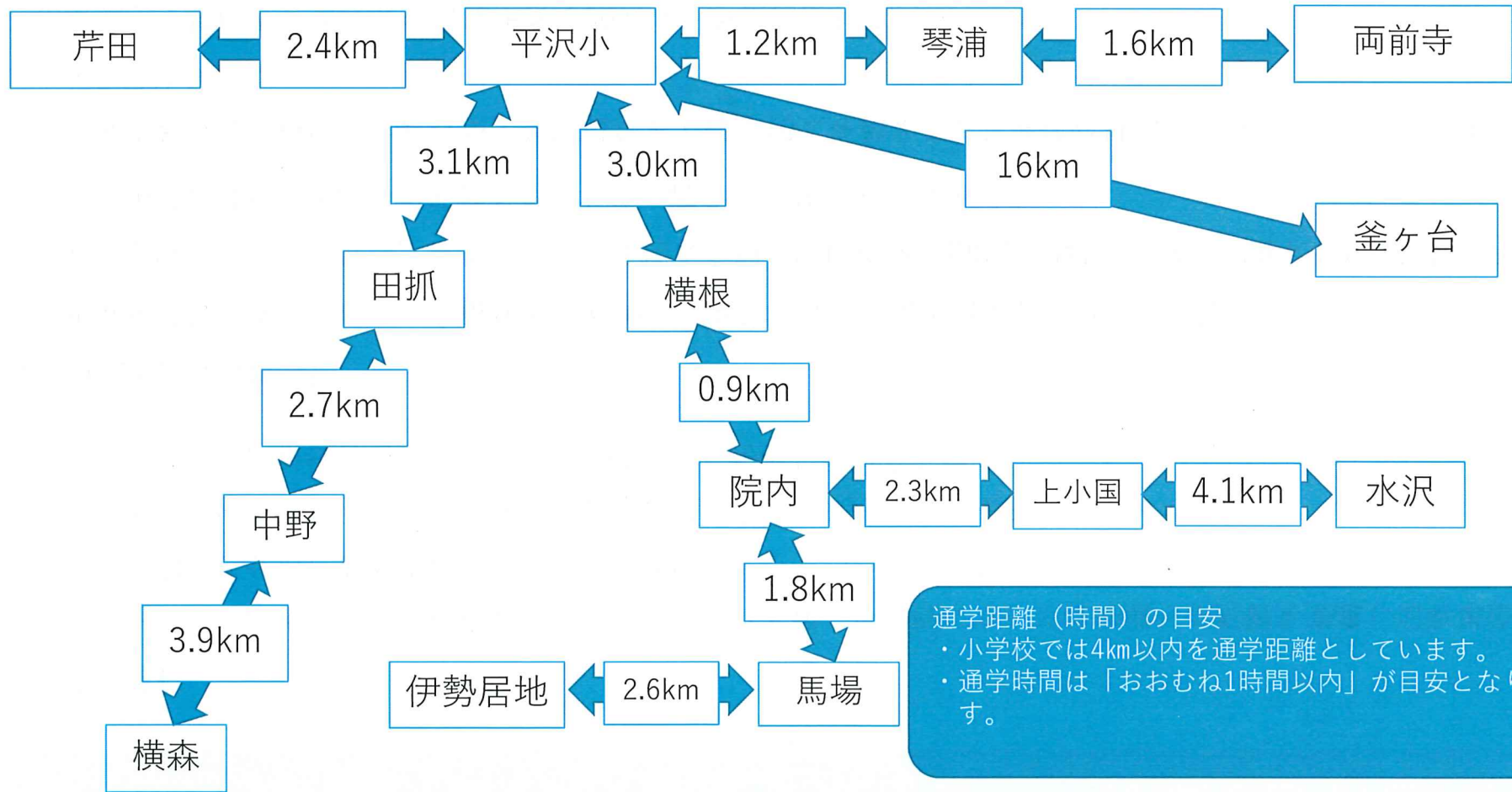
### 【適正配置】

- 適正化により小規模校の適正化を図ることとしているが、小学校については地域への影響を考慮し旧町単位で1校を存続させることとする。旧町範囲で2校となっている平沢小と院内小の適正化を図る。
- 現在の小学校校舎は、院内小学校が築58年と最も古く平沢小学校が築35年となっている。
- 小学校の再編は新校舎建設ではなく、既設校舎を利用した統合とする。

### 【人口・生徒数の増減】

- 平沢小学校の入学者数は、令和9年まで40人前後となるが、10年以降は30人程度で推移する見込み。
- 院内小学校の入学者数は、令和7年までは10人を超えているが令和8年には5人、令和11年には6人となる見込み。
- 院内小学校は複式学級の可能性が高いため、統合によりその解消を図る。
- 金浦小学校は小規模ではあるが、令和11年まで毎年10人を超える入学者数が見込まれるが、令和12年には7人となる見込み。
- 象潟小学校の入学者数は令和12年まで30人以上が見込まれる。

# にかほ地域内の平沢小学校までの距離



## 中学校の再編計画

(2) (仮称) 象潟・金浦・仁賀保統合中学校

(対象校3校：象潟中、金浦中、仁賀保中)

①再編の時期・・・ 令和14年4月の統合を目指す。

■児童生徒数及び学級数の推移

中学校	令和13年 2031		中学校	令和14年 2032		令和15年 2033		令和16年 2034	
	生徒数	学級数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
仁賀保中	168	6	統合 中学校	322	9	310	9	281	9
金浦中	56	3							
象潟中	149	6							

②学校の位置・・・ 既設の象潟中学校、仁賀保中学校のいずれかを統合校舎とする方針のもと、統合準備委員会設置予定の前年（令和9年度）を目途に統合校舎の位置を決定する。（適正配置に関する考え方は次頁）

③通学区域・・・ にかほ市全域

④施設整備・・・ 既存校舎を継続使用するため、統合前の令和13年度までに既存校舎や設備の改修を行う。

⑤学校統合準備委員会の設置・・・ 令和10年度に学校統合準備委員会（仮称）を設置する。

## 中学校の適正配置の考え方

### 【適正配置】

- 統合中学校の位置は通学距離や通学手段、生徒数、設備の状況や周辺施設の配置が生徒の学びに繋がりやすいなど多様な観点からの判断が必要になる。
- にかほ市の南北の直線距離は約27kmでほぼ中央に位置するのは、ねむの丘付近である。
- 現在の中学校校舎は、金浦中学校が築44年と最も古く、象潟中学校が築16年、仁賀保中学校が築15年となっていて統合校舎として活用できるのは後述の2校である。
- 中学校の再編は新校舎建設ではなく、既設校舎を利用した統合とする。

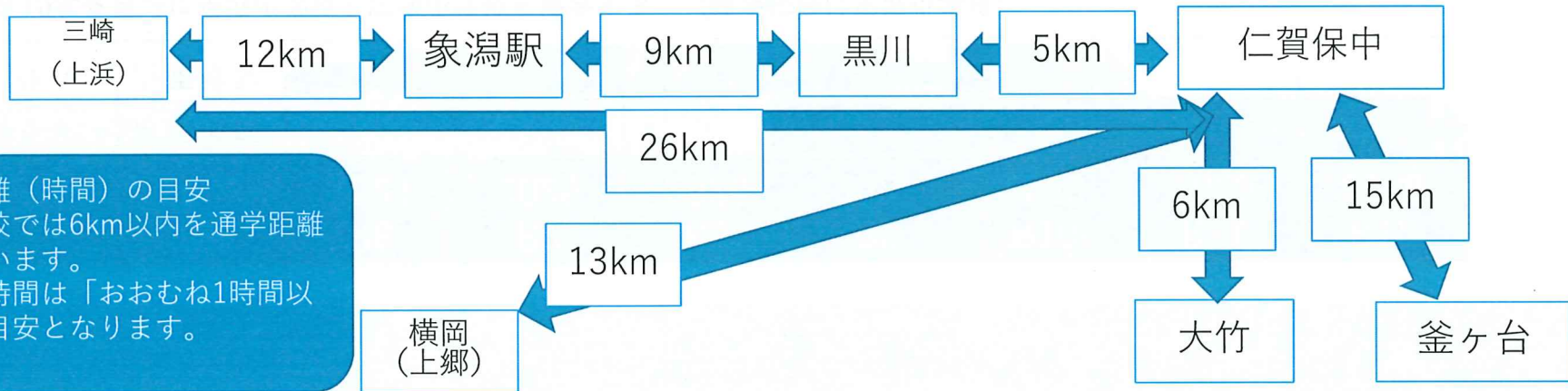
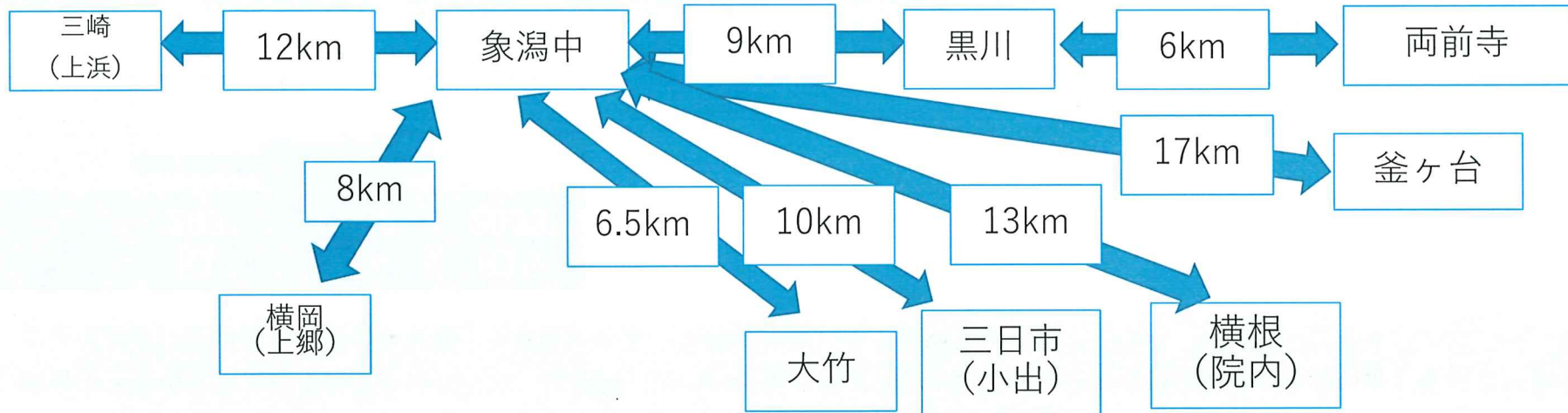
### 【人口・生徒数の増減】

- 現在の住基情報によると令和13年までは、象潟中、仁賀保中いずれも1学年2学級の複数クラスを維持できる。
- 令和14年から象潟中1年生が1学級になり、以降すべての学年で1学級となる見込み。
- 令和17年には仁賀保中学校1年生が1学級になり、以降すべての学年で1学級となる見込み。
- 令和17年には市内3校すべてで全学年1学級となる見込み。

### 【市の人口減少対策】

- 仁賀保地域では、民間企業社員寮が建設されており、さらには市が若者支援住宅整備事業を行う予定となっていることから、同地域においては人口減少の抑止が期待される。
- 現在（令和6年春）の状況のみにより、統合中学校の位置を決定するのは早計と判断し、人口減少対応策の進展に伴う各地域の状況などを把握・分析し、多角的な観点から見極め令和9年度までに統合校舎の位置を決定する。

## 市域内から中学校までの距離



通学距離(時間)の目安  
 ・中学校では6km以内を通学距離としています。  
 ・通学時間は「おおむね1時間以内」を目安となります。

## 行程表

	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
中学校	計画検討				校舎位置決定	統合準備（協議調整・施設整備）		
小学校	計画検討	統合準備（協議調整・施設整備）				完了		

- ① R10年を目途に平沢小学校と院内小学校を統合する。（統合校舎は平沢小学校）
- ② R14年を目途に3中学校を1校に統合する。（統合校舎は象潟中学校、仁賀保中学校のいずれか）
- ③ 統合中学校の位置は通学距離や通学手段、生徒数、設備の状況や周辺施設の配置が生徒の学びに繋がりがやすいなど多様な観点から検討し、統合準備委員会を設置する予定の前年（令和9年度）までに決定する。

	R13 2031	R14 2032	R15 2033
中学校	完了		
小学校			

協議調整が整い、統合が可能となれば前倒しで統合を実施することもありえる。

計画期間以降については出生数などの状況を踏まえ、児童生徒数の状況を勘案し、再度検討する。



現 状



適正化実施後



